

情報システムのセキュリティと情報倫理

CAUA会長(麗澤大学教授・情報システムセンター長)

林 英輔

2001年度も間もなく終わるが、大学の情報システムを管理する仕事に従事しているものにとっては、今年度ほど「情報システムのセキュリティ」確保の仕事で苦勞させられた年は無かったという思いが強いであろう。いずこのセンターのサーバーシステムでも、システム侵入攻撃、コンピュータウィルスの受信等が相次ぎ、しかも次々に新種が登場するとあっては、システムの監視と対応に追いまわられてしまう。わたしどもの大学の情報システムセンターでは、この一年の不正アクセス等に対する対策業務を総括し、①不正アクセス検知数、②ウィルス付きメール検知数、③不正webサーバアクセス数、に係る統計解析データを学内に報告して「情報システムのセキュリティ」確保業務の重要性を認識してもらおうとしている。

昨年度までも、インターネットではスパムメールやポートスキャン等の不正アクセスの増加傾向が続いていて、システム管理側では常に警戒し、安全対策を講じてきた。インターネットの有用性と経済性の高さが、多くの利用者呼び込み、それにつれて不正利用も増加し、いまや現実の社会と変わらないほど、多くの有用性の他に多くの有害性を有するコミュニケーション手段になったと思っていたが、今年度ほど、間断なく多数の不正攻撃があると、情報システムに対して綿密かつ強力なセキュリティ対策を講じることの重要性と緊急性を痛感する。また、このようなシステムセキュリティは日常的業務の中でも特に重要なものになってしまったと感じる。

このようなインターネットの不正利用の状況を正してゆくには、上記のように、ネットワークを通じた不正攻撃に負けないセキュリティ対策を講じることが重要であるが、社会の非道徳的行為に対処するには、法律の整備も必要であり、更には、根本的な対策としては、倫理教育、すなわち、情報化社会の担い手である人の倫理感の育成に力を注ぐことが大切であると考えられる。わたしどもの大学では、情報倫理の授業科目をカリキュラムに位置付ける他、情報システムセンターではセンター利用規則に違反する不正利用を行った学生に対し、利用停止処分を決め、当人呼んで、何故不正利用を行うことが悪いのか、当人の行った不正利用の及ぼす効果は何か、といった内容を説明して反省を求める個人指導を行っている。利用室での飲食のような軽度の規則違反までを含めると、少くない数の学生がセンター長室に呼ばれて教育指導を受けているが、長期的にみた上記の状況の打破を考えると、このような指導を忍耐強く継続しなければならないと、心を引きしめている。

平成14年如月